

設立趣旨書

1 趣 旨

中山間地の過疎地は、食料、農業、環境、文化、地域などさまざまな問題が集約的に溜まっているところでは、

高齢化、人口減で耕作放棄地が増えています。

農業者、若者が減少し、農業が危機的状況になってきました。

小集落が消滅してしまうところがあちこちに出ています。

里山や山林も荒れて大雨が降ると水害が起こります。

地域の伝統文化の維持も難しくなってきました。

こんな状態が永く続き、事態は悪化の一途をたどっています。

これは、中山間地、過疎地だけの問題でなく、都市生活者、日本の社会全体で解決に当たっていかねばならない課題だと考えました。

3年前、宍粟市一宮町千町に地域住民と都市生活者が一体となって千町の活性化に協力する“あこがれ千町の会”を組織し活動してきました。

大きな成果をおさめてきましたが、多くの反省点や気づきをえました。

過疎地の根本原因を突き詰めていくと、過疎地の農業を本格的にたて直さないと事態の悪化は食い止められないこと、そして、若者、青年が過疎地に定住できるようにしないと、過疎地の10年先、未来に展望が持てないことがはっきり分かってきました。

農業を事業として成り立たせる。そのなかで青年たちの生活と自立、自己実現をはかるようにするにはどうするか、組織化された団体が主体的、継続的に事業と人びとを担い発展させる以外にないと考えました。

加えて、過疎地の農業を経営可能、持続可能にするためには、利用者、都市生活者の支援と協力、参加が不可欠です。これは農業の社会産業化の革命です。

これはNPO法人の出番、ミッションだと確信します。

具体的には、NPO法人の青年の村を設立し、過疎再生大学を併設します。

青年の村では、農産物の生産、加工、販売を中心に、地域の多面的な産業化を広げ、村づくり、地域おこしをすすめます。青年たちを大学に受け入れ、志の高い農業者として育成し、地域のリーダーとして活躍を期待します。

将来、千町から宍粟市全体へ、そして兵庫県全体に活動と事業を広げていきます。

千町に降る雨水の一滴が流れて揖保の大河となる。

2 申請に至るまでの経過

平成21年3月	千町自治会とNPOひょうご農業クラブの話し合い始まる。
平成22年4月	千町住民と都市生活者の会「あこがれ千町の会」発足
平成23年9月	千町自治会、あこがれ千町の会で検討
平成24年8月	青年の村 発起人総会開催

平成24年8月29日

特定非営利活動法人青年の村
設立代表者 住所又は居所

相生市若狭野寺田176番地
氏名 増田 大成